

令和6年度国立国会図書館活動実績評価

国立国会図書館（以下「館」）は、「国立国会図書館ビジョン 2021-2025 -国立国会図書館のデジタルシフト-」（以下「ビジョン」）の趣旨を踏まえ、ビジョンにおける重点事業や基本的役割等を対象として、年度ごとに活動実績評価を行う。

活動実績評価は、①効率的で質の高い活動の実現、②国の機関としての説明責任の履行、③館の使命及び目標の達成に向けた活動の進捗管理の3点を目的として行う。

活動実績評価においては、評価の客観性を担保するために、評価指標及び参考指標を設定する。

ビジョンの構成にあわせて、館の事業全般に関する評価（ビジョンの「基本的役割」に対応）に加えて、重点事業推進に関する評価を行う。この重点事業に係る事業分野については、その達成状況を総合的に判断し、定性的に評価することとし、関連する評価指標又は参考指標を再掲の形で補記する。

なお、枠組みの策定に当たっては、「国立国会図書館活動実績評価に関する有識者会議」において聴取した、評価の手法等に関する意見を反映した。

＜用語解説＞

（1）評価指標（「指標名」欄に◆のあるもの）

自律的に成果を挙げることが可能な業務や、利用者へのサービスの提供に係る日数等を対象とする指標で、近年の実績値とその増減の傾向、事業の規模・性質等を踏まえ、年度当初に数値目標を設定し、達成に努める。評価指標は、目標値の設定方法によって次の三つの類型がある。

①3か年平均基準型

サービスレベルを維持するため、直近3年の実績値（ただし、[]を付した特殊な事情のある年度（*）の実績値を除いた直近3年）の平均値を基準とし、基準の±10%以内を目標値として設定するもの

②前年度基準型

前年度以上のサービスレベルを目指すため、前年度の実績値を基準とし、その値を目標値として設定するもの

③既定目標値型

契約・協定その他の取決めにより定める値（既定の値）を目標値として設定するもの

* 目標値を未達成だった年度のうち、当該年度の実績値が前年度以前の過去3か年平均±3σ（標準偏差）から外れた年度

（2）参考指標

他律的な側面が強く対外的な要因に左右されやすいため目標値を設定しないが、当館の活動の動向を把握するために用いる指標

（3）評語

年度終了後、事業の実施状況や指標の達成状況等を踏まえ、次の4段階の評語で事業分野を評価する。（）内は基本的な判断基準を示すが、年度ごとの特殊要因も考慮して総合的に判断する。

①目標を達成した（a.評価指標を全て達成し、b.参考指標が順調に推移し、c.事業を予定どおり実施した場合）

②目標をおおむね達成した（a.評価指標の半数以上を達成し、b.参考指標の半数以上が順調に推移し、c.事業をおおむね予定どおり実施した場合）

③目標を一部しか達成できなかった（上記②a,b,cの基準を一つは満たす場合）

④目標を達成できなかった（上記②a,b,cの基準を全く満たさなかった場合）

事業分野	1. 国会活動の補佐	
事業分野の概要及び目標	<p>国会議員に対し、所蔵資料のほかデータベースその他の電子情報を活用し、客観的な調査・分析に基づく的確な回答を、依頼者の要望に即した方法（令和6年1月に開始した著作物のメール送信を含む。）で提供する。また、国政審議の参考に資するため、国政課題に関する調査研究を行い、その成果を刊行物等に取りまとめ、調査回答に活用するとともに、政策セミナーを通じて国会議員等に紹介する。</p> <p>国内外の大学や調査研究機関等及び海外の議会関係機関等との連携を強化して、最新かつ高度な学術的知見を幅広く積極的に吸収し、調査サービスを充実させる。</p> <p>国の基本的な政策課題や、法的・社会的・倫理的課題が生じやすい科学技術に関する国政課題について、外部専門家の知見と協力を得て、より総合的かつ高度な視点から、各種の調査プロジェクトを実施し、成果を公表する。令和6年度は、総合調査プロジェクト「人口減少と地域の課題」及び科学技術に関する調査プロジェクト3件（「海洋をめぐる動向と課題」、「フードテック」及び「デジタル時代の技術と社会」）（いずれも仮）をテーマに調査を実施する予定である。</p> <p>国会会議録検索システム及び日本法令索引について、国会議員及び国民が容易にアクセスできるよう、コンテンツ及び機能のさらなる整備充実を図り、国会と国民とをつなぐ役割を一層強化する。帝国議会会議録検索システムにおいて、令和6年度上半期を目途に戦前期分の帝国議会会議録のテキストデータの提供を開始する。また、国立国会図書館デジタルコレクションにおいて、デジタル化した帝国議会議事印刷資料の提供を進める。</p>	
評価結果	評語	目標を達成した。
	根拠・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・国会議員等の依頼に応じ、32,685件の調査を行った（依頼調査。指標1）。依頼調査の処理件数は、総選挙等で依頼の少ない時期があり前年度からやや減少した。調査報告作成及び面談・会議における説明による回答の割合（約15%）は前年度と同水準であった。国政課題に関する調査研究の総件数（指標2）と政策セミナーの開催回数（指標4）は目標値を達成した。 ・欧州議会調査局（EPRS）の呼び掛けにより開催されたG7議会調査機関会議に参加し、議会調査におけるAI活用の課題と機会等について意見交換を行った。また、欧州議会テクノロジーアセスメント（EPTA）の理事会及び総会に参加して科学技術に関する調査プロジェクトの進捗報告等を行ったほか、共同調査プロジェクト“Artificial Intelligence and Democracy”に参加し、我が国の立法・行政分野における生成AIの利用に関する状況や課題等を取りまとめた。 ・分野横断的かつ中長期的な立法上・政策上の重要課題について調査を行う「総合調査」を1件（「人口減少と地域の課題」）、科学技術分野における重要な国政課題の中から特定のテーマを選定して調査を行う「科学技術に関する調査プロジェクト」を3件（「海洋をめぐる動向と課題」、「フードテック—「食」を変える先端技術の課題と可能性—」及び「AIと社会のこれからを考える」）実施した。 ・帝国議会会議録検索システムにおいて戦前・戦中期分のテキストデータを令和6年8月に公開した。令和7年3月に、同システムに検索用APIを追加し、国会会議録検索システムと同様のテキストデータ等を機械的に容易に取得できるようにした。また令和7年2月に国立国会図書館デジタルコレクションに約2,200点の帝国議会の議事資料や出版物を追加し、公開済みの約900点とあわせて「帝国議会資料」コレクションとして公開した。

関連指標						
指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	令和6年度	達成状況/ 動向 ¹
1 依頼調査の処理件数	30,320 件	33,465 件	36,233 件	—	32,685 件	水準維持
2 国政課題に関する調査研究の総件数◆ ²	329 件	319 件	316 件	290～353 件 (3か年平均基準型)	307 件	達成
3 国政課題に関する調査研究のアクセス数（一般向け）	4,583,955 件	3,690,226 件	4,461,585 件	—	4,526,297 件	水準維持
4 政策セミナーの開催回数◆ ³	16 回	17 回	14 回	15～17 回 (3か年平均基準型)	15 回	達成
5 国会議員の調査サービスの利用率 ⁴	85%	87%	86%	—	84%	水準維持
6 国会会議録検索システムのデータへのアクセス数（一般向け）	12,074,304 件	13,142,343 件	16,483,550 件	—	23,031,039 件	40%増
7 日本法令索引のページビュー数	9,102,630 件	9,232,674 件	10,000,126 件	—	11,958,047 件	20%増

¹ 評価指標は「達成」「未達成」で目標値の達成状況を評価。参考指標は、前年度比±10%以内を「水準維持」とし、10%を超過した場合は増減率を記載（以下同様）

² 刊行物『レファレンス』、『調査と情報—ISSUE BRIEF—』、『外国の立法』、『調査資料』（『総合調査報告書』、『科学技術に関する調査プロジェクト報告書』、『各国憲法集』等）等。令和5年度は「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律第21条に基づく調査報告書」のために作成した報告書原案を含む。

³ 令和3年度から令和6年度まで全てオンライン開催。外部参加者の延べ人数は、令和3年度 230 人、令和4年度 203 人、令和5年度 203 人、令和6年度 199 人。これに加え、国会向け情報提供サイトにおいて同内容の音声付きスライドショーを視聴可能としている。音声付きスライドショーへのアクセス件数は、令和3年度 545 件、令和4年度 970 件、令和5年度 869 件、令和6年度 710 件

⁴ 年度末までの議員有資格者のうち、年度内に調査を依頼したことのある議員の割合

事業分野	2. 資料・情報の収集・整理・保存	
事業分野の概要及び目標	<p>納本制度に基づき、国内の出版物を広く収集する。また、国の機関や地方公共団体等の公的機関のウェブサイト等を法律に基づき収集するとともに、民間のウェブサイト等について公共性や時代性を考慮し許諾を得て選択的に収集する。民間が発行したオンライン資料（電子書籍・電子雑誌）はオンライン資料収集制度に基づき収集する。</p> <p>国内刊行の出版物の目録、典拠、雑誌記事索引等を作成し、広く利活用できるよう、インターネット等を通じて提供する。新しい国立国会図書館サーチ（＊）において追加・拡充した全国書誌データ等の検索及びダウンロードサービスについて、積極的な広報活動等により、利活用を促進する。</p> <p>収集した資料を永く保存し、国民共有の文化的資産として後世に伝える。そのため、デジタル化や適切な保存環境の整備、劣化・破損した資料の修復等、電子形態の資料を含め、長期保存対策に取り組む。</p> <p>* 令和6年1月に、従来の国立国会図書館オンラインと国立国会図書館サーチを統合・リニューアルした新たなオンラインサービスとして国立国会図書館サーチの提供を開始した。</p>	
評価結果	評語	目標をおおむね達成した。
	根拠・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・国内出版物の納入率（指標9）、オンライン資料の新規収集データ数（指標11）及びウェブサイト等の新規収集データ数（指標12）は目標値達成又は水準維持となった。 ・東京本館で受け入れた和図書の受入れから書誌データ校了までに要した日数（指標13）については、外注経費削減のための業務フローの変更により日数の増加が発生し、わずかに目標値を超過した。和非図書については目標値を達成した（指標14）。索引誌当該号の受入れから雑誌記事索引のデータ校了までに要した日数（指標15）については、大きく目標値を超過した。本作業は外部委託によるものが多数を占めるが、令和6年度は人件費等の上昇により委託する作業数量を削減せざるを得なかった。職員の稼働を増やしたもの、令和5年度以前よりも総作業数量が減少し、日数の大幅な増加につながった。 ・製本、修理・修復等の処置や3施設書庫内の温湿度管理、環境調査等を適切に実施した（指標18）。原資料である光ディスク約4,700枚について、マイグレーションを行った。過去にデジタル化を行った資料の保存用画像のうち、光ディスク約36,000枚に保存されていた画像について、LTOへの媒体変換を行った。

関連指標						
指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	令和6年度	達成状況/動向
8 国内出版物受入資料点数 ⁵	593,726点	598,139点	602,152点	—	541,345点	10%減
9 国内出版物の納入率 ①図書◆ ⁶ 6	99%	98%	99%	99% (前年度基準型)	99%	達成
②逐次刊行物◆ ⁷ 7	93%	93%	93%	93% (前年度基準型)	93%	達成
③官庁出版物（国） 8	99%	98%	99%	—	99%	水準維持

⁵ 納入、購入及び寄贈の合計

⁶ 日販、トーハン及び地方・小出版流通センターの取り扱う図書のデータを基に、前年に発行された出版物を対象として算出した。

⁷ 「雑誌コード管理台帳Web」（日本出版インフラセンター）を基に、前年度に継続刊行中の資料を対象として算出した（一部官庁出版物も含む。）。

⁸ 国の諸機関（一部を除く。）の図書館の所蔵データを基に、前年に発行された国の諸機関の出版物（図書・逐次刊行物）を対象として算出した。

指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	令和6年度	達成状況/ 動向
④官庁出版物（地方） ⁹	96%	95%	96%	—	92%	水準維持
10 納本制度の認知度（利用者アンケート） ¹⁰	74%	77%	80%	—	79%	水準維持
11 オンライン資料（電子書籍・電子雑誌） ①新規収集データ数◆ ^{11 12}	75,709点	72,389点	[58,076点]	68,733～84,007点 (3か年平均基準型)	71,070点	達成
②うち、民間発行分の新規収集データ数 ¹¹	25,086点	24,232点	26,003点	—	23,843点	水準維持
12 インターネット資料（ウェブサイト・アーカイブ（WARP））の新規収集データ数◆	20,261件	20,358件	18,706件	17,798～21,752件 (3か年平均基準型)	21,150件	達成
13 東京本館で受け入れた和図書の受入れから書誌データ校了までに要した日数◆ ¹³	21.1日	16.0日	19.7日	17.1～20.8日 (3か年平均基準型)	20.9日	未達成
14 東京本館で受け入れた和非図書（録音・映像資料）の受入れから書誌データ校了までに要した日数◆ ¹³	14.7日	15.0日	15.6日	13.6～16.6日 (3か年平均基準型)	14.9日	達成
15 索引誌当該号の受入れから雑誌記事索引のデータ校了までに要した日数◆ ^{13 14}	9.3日	[20.7日]	8.6日	8.4～10.1日 (3か年平均基準型)	27.3日	未達成
16 書誌データの利用 ¹⁵ ①国立国会図書館サーチからの書誌ダウンロード件数 ¹⁶	—	—	(3,705,396件)	—	13,560,737件	—
②うち、MARC形式の書誌ダウンロード件数 ^{17 18} 上段：旧国立国会図書館サーチ 下段：新国立国会図書館サーチ	(238,406件)	(251,870件)	(248,695件) (399,072件)	—	— 692,508件	—
17 Web NDL Authorities のトップページのアクセス数	584,627件	497,304件	542,393件	—	699,438件	29%増
18 資料保存対策を行った資料点数 ¹⁹	62,517点	78,108点	109,177点	—	105,073点	水準維持

⁹ 各都道府県、各政令指定都市（一部を除く。）の図書館の所蔵データを基に、前年に発行された各都道府県又は各政令指定都市の出版物（図書・逐次刊行物）を対象として算出した。

¹⁰ 認知度は、利用者アンケートにおいて「知っている」と回答した人の割合。標本数は、令和3年度2,299件、令和4年度2,206件、令和5年度2,477件、令和6年度2,620件

¹¹ インターネット資料収集保存事業により収集したオンライン資料を含む。

¹² 目標値算出に当たって、令和5年度の実績値を除外し、令和2年度の実績値（81,012点）を算入

¹³ 処理件数のうち、80%以上を提供した日数

¹⁴ 目標値算出に当たって、令和4年度の実績値を除外し、令和2年度の実績値（9.9日）を算入

¹⁵ 令和5年度のリニューアル前後で大きく書誌データの提供方法が変化しており、またリニューアル直後の一時的な利用増の影響もあることから、令和6年度との比較は行わず、評価対象外とした。

¹⁶ 国立国会図書館サーチとメタデータ連携した他機関作成データのダウンロード件数を含む。令和5年度の数値は令和6年1月から3月末までの約3か月間の値である。

¹⁷ 「旧国立国会図書館サーチ」は令和6年1月のリニューアル以前に提供していた国立国会図書館サーチ、「新国立国会図書館サーチ」はリニューアル後の国立国会図書館サーチをそれぞれ指す。

¹⁸ MARCは、Machine-Readable Cataloging（機械可読目録）の略称。なお、新国立国会図書館サーチでは、旧国立国会図書館サーチでは対応していないかった書誌データのMARC形式での複数件一括ダウンロードが可能になった。

¹⁹ 製本、修理・修復、保存容器への封入、脱酸性化処理及びマイグレーション等を行った点数。ただし、保存容器への封入は、保存容器の点数を計上

事業分野	3. 情報資源の利用提供				
事業分野の概要及び目標	<p>インターネット等で申込みが可能な遠隔複写サービス、図書館間貸出し及び図書館を通じたレファレンスサービスを提供する。「著作権法の一部を改正する法律」(令和3年法律第52号)の施行を受け、令和6年6月を目途に、利用者の申込みに応じて所蔵資料の一部分の複製ファイルを提供する図書館等公衆送信サービス（「遠隔複写（PDFダウンロード）」）を開始する。また、リサーチ・ナビの各種コンテンツや電子展示会等の付加価値を付けた情報発信サービスを提供する。</p> <p>新しい国立国会図書館サーチの安定稼働に努めるとともに、一層の利便性向上に向けた取組を進める。</p> <p>所蔵資料のデジタル化及びその著作権処理を進め、インターネットを通じて提供する。インターネット提供を行っていないデジタル化資料のうち入手困難な資料を、個人向けデジタル化資料送信サービスとして国内に居住する登録利用者に提供するとともに、図書館向けデジタル化資料送信サービスとして国立国会図書館が承認した図書館内で提供する。</p> <p>東京本館、関西館、国際子ども図書館の三つの施設において、所蔵資料の閲覧や複写、レファレンスのサービスを提供するとともに、オンラインも活用しつつ展示会や講演会等のイベントを実施する。</p> <p>関係機関と連携して学術文献の録音図書やテキストデータを製作するとともに、公共図書館等が製作した音声DAISYデータ、点字データ等を収集し、これらのデータをインターネットを通じて提供する。</p> <p>国際子ども図書館においては、児童書や子どもの読書に関わる活動の支援や子ども向けのサービスを通じて、子どもが読書や図書館に親しむきっかけを提供する。</p>				
評価結果	<table border="1"> <tr> <td>評語</td> <td>目標をおおむね達成した。</td> </tr> <tr> <td>根拠・説明</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔複写においては、複写全体の作業体制の調整により、年度前半に滞貨が生じた結果、受理から発送までに要した日数（指標21④）は目標値に達しなかったものの、年度後半からは改善傾向にある。令和6年6月の開始を目途としていた図書館等公衆送信サービスについては、補償金を受ける権利行使する団体側の体制整備の遅れから実施時期の見直しを行い、令和7年2月から開始した。本サービスを通じて3月末までに9,241コマを処理した。 ・令和6年11月に、国立国会図書館サーチのシステム更新を行い、検索結果のRSS出力機能を追加した。また、令和7年3月に、紙資料と同一内容の電子版が当館で閲覧できる場合に書誌詳細画面へリンク表示を行い、紙資料からオンライン資料への利用動線を拡充した。 ・国立国会図書館サーチのリニューアルに際して、記事掲載箇所調査と遠隔複写サービスの導線を刷新したことにより、遠隔複写申込と誤認して申し込まれる記事掲載箇所調査の件数が大幅に減少した（指標28②）。 ・図書館経由文書レファレンスについては、簡易な依頼が減少し、専門的な依頼が相対的に増加したこと等により、所要日数（指標28⑤）の目標未達となった。 ・国立国会図書館デジタルコレクションにおけるインターネット提供分のデータ数を着実に増加させた（指標25②）。また、個人向けデジタル化資料送信サービスの利用規約に同意した登録利用者数（指標26②）が前年度に引き続き9万人超と大幅に増加した。 </td> </tr> </table>	評語	目標をおおむね達成した。	根拠・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔複写においては、複写全体の作業体制の調整により、年度前半に滞貨が生じた結果、受理から発送までに要した日数（指標21④）は目標値に達しなかったものの、年度後半からは改善傾向にある。令和6年6月の開始を目途としていた図書館等公衆送信サービスについては、補償金を受ける権利行使する団体側の体制整備の遅れから実施時期の見直しを行い、令和7年2月から開始した。本サービスを通じて3月末までに9,241コマを処理した。 ・令和6年11月に、国立国会図書館サーチのシステム更新を行い、検索結果のRSS出力機能を追加した。また、令和7年3月に、紙資料と同一内容の電子版が当館で閲覧できる場合に書誌詳細画面へリンク表示を行い、紙資料からオンライン資料への利用動線を拡充した。 ・国立国会図書館サーチのリニューアルに際して、記事掲載箇所調査と遠隔複写サービスの導線を刷新したことにより、遠隔複写申込と誤認して申し込まれる記事掲載箇所調査の件数が大幅に減少した（指標28②）。 ・図書館経由文書レファレンスについては、簡易な依頼が減少し、専門的な依頼が相対的に増加したこと等により、所要日数（指標28⑤）の目標未達となった。 ・国立国会図書館デジタルコレクションにおけるインターネット提供分のデータ数を着実に増加させた（指標25②）。また、個人向けデジタル化資料送信サービスの利用規約に同意した登録利用者数（指標26②）が前年度に引き続き9万人超と大幅に増加した。
評語	目標をおおむね達成した。				
根拠・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔複写においては、複写全体の作業体制の調整により、年度前半に滞貨が生じた結果、受理から発送までに要した日数（指標21④）は目標値に達しなかったものの、年度後半からは改善傾向にある。令和6年6月の開始を目途としていた図書館等公衆送信サービスについては、補償金を受ける権利行使する団体側の体制整備の遅れから実施時期の見直しを行い、令和7年2月から開始した。本サービスを通じて3月末までに9,241コマを処理した。 ・令和6年11月に、国立国会図書館サーチのシステム更新を行い、検索結果のRSS出力機能を追加した。また、令和7年3月に、紙資料と同一内容の電子版が当館で閲覧できる場合に書誌詳細画面へリンク表示を行い、紙資料からオンライン資料への利用動線を拡充した。 ・国立国会図書館サーチのリニューアルに際して、記事掲載箇所調査と遠隔複写サービスの導線を刷新したことにより、遠隔複写申込と誤認して申し込まれる記事掲載箇所調査の件数が大幅に減少した（指標28②）。 ・図書館経由文書レファレンスについては、簡易な依頼が減少し、専門的な依頼が相対的に増加したこと等により、所要日数（指標28⑤）の目標未達となった。 ・国立国会図書館デジタルコレクションにおけるインターネット提供分のデータ数を着実に増加させた（指標25②）。また、個人向けデジタル化資料送信サービスの利用規約に同意した登録利用者数（指標26②）が前年度に引き続き9万人超と大幅に増加した。 				

		<p>・来館利用は、コロナ禍からの回復傾向は鈍化し前年度と同水準となった（指標 27①～⑤）。また、東京本館、関西館、国際子ども図書館の各施設で展示会を開催し、開催回数（指標 30①）は目標値を達成した。</p> <p>・学術文献の録音図書等を作成するとともに、公共図書館等が製作した視覚障害者等用データの収集を進め、新規データ数（指標 32②）は目標値を大幅に超えて達成した。</p> <p>・国際子ども図書館では、子どもの読書・学習支援コンテンツの拡充・更新を行った。子ども読書活動推進イベントを含むイベントの開催回数は 45 回であり目標値に達しなかったものの、この目標値はコロナ禍前の実績値を含んで算定したものであり、前年度の開催回数に比べると 10%以内の変動にとどまっている。子ども読書活動推進イベント参加者数は増加した（指標 29①～⑤）。また、5 件の講演会動画を YouTube で配信し、延べ 4,881 件のアクセスを得るなど、より多くの人にイベントが共有されるよう、講演会動画のオンデマンド配信に積極的に取り組んだ。</p>
--	--	--

関連指標						
指標名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	目標値	令和 6 年度	達成状況 / 動向
19 利用者登録 ①登録利用者数	492,545 人	538,501 人	653,116 人	—	845,545 人	29%増
②うち、本登録利用者数	323,644 人	353,332 人	462,015 人	—	598,146 人	29%増
20 蔵書等検索サービス ①トップページのアクセス数 17 上段：国立国会図書館オンライン 下段：新国立国会図書館サーチ	(5,296,734 件) —	(6,538,775 件) —	(5,242,860 件) (5,089,253 件)	—	— 14,439,734 件	—
②満足度（利用者アンケート） 17 20 上段：国立国会図書館オンライン 下段：新国立国会図書館サーチ	(92%) —	(93%) —	(92%) —	—	— 92%	水準維持
21 遠隔複写 ①複写の処理件数	309,904 件	277,981 件	255,806 件	—	250,014 件	水準維持
②紙・マイクロ資料からの複写枚数	1,936,767 枚	1,756,499 枚	1,582,123 枚	—	1,467,719 枚	水準維持
③電子情報からの複写枚数	429,339 枚	396,383 枚	368,787 枚	—	420,589 枚	14%増
④インターネット経由申込複写について、受理から発送までに要した日数◆ 21	12.2 日	7.7 日	6.3 日	5.0 日 (既定目標値型)	7.6 日	未達成
⑤複写の満足度（利用者アンケート） 22	88%	91%	90%	—	89%	水準維持

²⁰ 利用者アンケートにおいて、国立国会図書館オンライン又は新国立国会図書館サーチの満足度を尋ねた設問に対して、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合。標本数は、令和 3 年度 1,981 件、令和 4 年度 1,906 件、令和 5 年度 2,210 件、令和 6 年度 2,324 件

²¹ 処理件数のうち、80%以上を提供した日数。休館日を除く。

²² 利用者アンケートにおいて、遠隔複写サービスの満足度を尋ねた設問に対して、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合。標本数は、令和 3 年度 1,117 件、令和 4 年度 1,108 件、令和 5 年度 1,185 件、令和 6 年度 1,271 件

指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	令和6年度	達成状況 /動向
22 図書館等への貸出し ①貸出点数 ²³	17,231 点	15,927 点	13,949 点	—	11,892 点	15%減
②受理から発送（又は謝絶）までに要した日数◆ ²⁴	2.4 日	2.4 日	2.5 日	3.0 日 (既定目標値型)	2.3 日	達成
23 リサーチ・ナビ ①(調べ方の紹介ページ)累積記事数 ²⁵	1,377 件	1,920 件	1,905 件	—	1,804 件	水準維持
②(調べ方の紹介ページ)更新回数（一記事当たり）◆ ^{25 26}	1.47 回	1.50 回	1.29 回	1.28～1.56 回 (3か年平均基準型)	1.33 回	達成
③ページビュー数 ²⁷	(56,911,884 件)	(6,483,216 件)	(6,463,151 件)	—	5,443,577 件	16%減
24 所蔵資料のデジタル化実施数（紙資料・マイクロ資料）	49,057,598 コマ	51,098,272 コマ	61,810,246 コマ	—	63,815,112 コマ	水準維持
25 国立国会図書館デジタルコレクション ①累積データ数	4,329,866 点	5,028,894 点	5,578,623 点	—	6,219,595 点	11%増
②うち、インターネット提供数◆	1,767,474 点	1,838,041 点	1,919,280 点	1,919,280 点 (前年度基準型)	2,013,800 点	達成
③アクセス数 ²⁸	(92,074,555 件)	(66,871,857 件)	38,140,483 件	—	45,623,011 件	20%増
④うち、インターネット経由のアクセス数 ²⁸	(89,045,565 件)	(58,728,449 件)	24,722,407 件	—	28,114,525 件	14%増
26 デジタル化資料送信サービス (個人向け及び図書館向け) ²⁹	1,538,914 点	1,851,430 点	1,803,834 点	—	2,052,268 点	14%増
①対象資料数	—	110,033 人	206,488 人	—	303,351 人	47%増
②個人向けデジタル化資料送信サービスの利用規約に同意した登録利用者数	—	(3,940,546 件)	7,664,013 件	—	10,661,820 件	39%増
③個人向けデジタル化資料送信サービス利用者による閲覧件数	—	(273,328 件)	1,429,219 件	—	1,850,474 件	29%増
⑤図書館向けデジタル化資料送信サービス承認館数	1,365 館	1,419 館	1,459 館	—	1,493 館	水準維持
⑥図書館向けデジタル化資料送信サービス承認館における閲覧件数 ³⁰	(306,639 件)	(227,756 件)	341,614 件	—	375,431 件	水準維持

²³ 学校図書館セット貸出し及び展示会出品資料の貸出しを含む。

²⁴ 処理件数のうち、80%以上を提供した日数。東京本館及び関西館については休館日及び土曜日を、国際子ども図書館については祝日及び東京本館への移送に要する日数を除く。

²⁵ 令和4年7月のリニューアルにより「調べ方案内」という区分は存在しなくなつたため、令和4年度からは旧「調べ方案内」におおむね相当する、調べ方を紹介するページの数値を計上

²⁶ 1年間の更新データ数を年度末の累積記事数で割って算出

²⁷ リサーチ・ナビは、令和4年4月の統計採取ツールの変更及び令和6年1月のリニューアルに伴いページビュー数のカウント方法が変更された。

²⁸ 国立国会図書館デジタルコレクションは、令和4年12月のシステムリニューアルに伴いアクセス数のカウント方法が変更された。

²⁹ 個人向けデジタル化資料送信サービスは令和4年5月に開始した。複写（プリントアウト）機能は令和5年1月に追加した。

³⁰ 令和4年12月の国立国会図書館デジタルコレクションのリニューアル後は、管理用端末での閲覧件数を含む。

指標名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	目標値	令和 6 年度	達成状況 /動向
⑦図書館向けデジタル化資料送信サービス承認館における複写件数	150,443 件	100,653 件	75,488 件	—	62,049 件	18%減
27 館内利用 ①館内利用者数	383,199 人	503,404 人	605,777 人	—	658,674 人	水準維持
②閲覧点数 ³¹	1,330,526 点	1,642,090 点	1,767,221 点	—	1,712,416 点	水準維持
③複写の処理件数	854,856 件	942,166 件	952,547 件	—	906,900 件	水準維持
④紙・マイクロ資料からの複写枚数	3,663,085 枚	4,029,795 枚	3,829,584 枚	—	3,685,458 枚	水準維持
⑤電子情報からの複写枚数	2,140,014 枚	2,444,568 枚	2,486,573 枚	—	2,423,896 枚	水準維持
28 レファレンス ①文書	12,249 件	12,715 件	9,859 件	—	4,974 件	50%減
②うち、複写用記事掲載箇所調査	6,638 件	6,751 件	4,738 件	—	1,383 件	71%減
③電話	21,274 件	20,459 件	18,526 件	—	17,539 件	水準維持
④口頭 ³²	355,130 件	471,481 件	523,349 件	—	584,359 件	12%増
⑤図書館経由文書レファレンスについて、文書受理から回答までに要した日数◆ ³³	[8.6 日]	6.3 日	6.6 日	6.1～7.3 日 (3か年平均基準型)	7.8 日	未達成
29 イベント ①開催回数(オンライン開催を含む。)◆ ³⁴	[31 回]	[39 回]	50 回	60～73 回 (3か年平均基準型)	45 回	未達成
②うち、子ども読書活動推進イベントの開催回数◆ ³⁵	[6 回]	[12 回]	[20 回]	28～34 回 (3か年平均基準型)	20 回	未達成
③総参加者数(オンライン参加を含む。)	3,332 人	5,447 人	5,667 人	—	5,711 人	水準維持
④うち、子ども読書活動推進イベントの総参加者数	299 人	507 人	1,140 人	—	1,508 人	32%増
⑤満足度 ³⁶	96%	97%	98%	—	98%	水準維持
30 展示会 ①開催回数◆	15 回	18 回	16 回	15～18 回 (3か年平均基準型)	15 回	達成
②総入場者数 ³⁷	(17,554 人)	81,388 人	123,951 人	—	166,747 人	35%増
③満足度 ³⁶	96%	96%	94%	—	97%	水準維持
31 電子展示会のページビュー数	12,246,726 件	12,526,188 件	17,006,067 件	—	26,379,494 件	55%増
32 視覚障害者等用データ送信事業 ①新規データ数 ³⁸	4,540 件	2,469,724 件	5,050 件	—	734,899 件	—

³¹ 紙資料、マイクロ資料、パッケージ系電子出版物等、書庫からの出納点数

³² 口頭レファレンスのうち、利用案内、機器操作支援、検索援助等は 570,589 件（令和 6 年度）

³³ 処理件数のうち、80%以上を提供した日数。休館日を含む。目標値算出に当たって、令和 3 年度の実績値を除外し、令和 2 年度の実績値（7.2 日）を算入

³⁴ 目標値算出に当たって、令和 2～4 年度の実績値を除外し、平成 30 年度（85 回）及び令和元年度（65 回）の実績値を算入

³⁵ 目標値算出に当たって、令和 2～5 年度の実績値を除外し、平成 29 年度（35 回）、平成 30 年度（30 回）及び令和元年度（28 回）の実績値を算入

³⁶ 参加者へのアンケートで「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合

³⁷ 令和 3 年度は東京本館ギャラリー展示の入場者数を採取していなかった期間がある。

³⁸ 令和 5 年 3 月に、視覚障害者等を対象として、デジタル化資料から作成した全文テキストデータの提供を開始した。新規データ数については、全文テキストデータの作成量に大きく依存するため、動向についての記載は省略した。

指標名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	目標値	令和 6 年度	達成状況 /動向
②うち、デジタル化資料から作成した全文テキストデータを除く新規データ数◆ 39	4,540 件	[3,789 件]	5,050 件	4,226～5,164 件 (3か年平均基準型)	7,949 件	達成
③送信承認館数	202 館	239 館	337 館	—	389 館	15%増
④登録利用者（個人）及び図書館等からのアクセス数	669,449 件	720,665 件	773,152 件	—	911,424 件	18%増
33 利用者サービス全般満足度（利用者アンケート） 40	90%	92%	92%	—	91%	水準維持

³⁹ 目標値算出に当たって、令和 4 年度の実績値を除外し、令和 2 年度の実績値（4,495 件）を算入

⁴⁰ 利用者アンケートにおいて「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合。標本数は、令和 3 年度 2,299 件、令和 4 年度 2,206 件、令和 5 年度 2,477 件、令和 6 年度 2,620 件

事業分野	4. 各種機関との連携協力		
事業分野の概要及び目標	<p>国立国会図書館の情報資源やサービス、図書館業務に関する知識及び経験が国内の各種図書館の業務やサービスの向上に役立つよう、オンラインを含む研修や情報発信を通じて、その活動や人材育成を支援する。また、国内の類縁機関との懇談会等を通じて連携関係を強化する。</p> <p>国際図書館連盟（IFLA）等への委員の派遣、会議への参加（オンラインも含む。）や、中国国家図書館、韓国国立中央図書館を始めとする海外の図書館との業務交流等を通じて、図書館に関わる普遍的な課題の解決に取り組む。</p> <p>新しい国立国会図書館サーチやみなサーチを含め、全国の図書館等のデジタル化資料を含む所蔵資料、調べ方の事例等のデータ連携プラットフォームを提供し、我が国情報資源への総合的なアクセスや利活用の利便性向上を図る。</p>		
評価結果	評語	<u>目標をおおむね達成した。</u>	
	根拠・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館員向け研修（集合研修/遠隔研修）の実施件数は目標値を達成したほか、講師派遣の実施件数も前年度から増加した（指標 34①～③）。 ・IFLA 総会、IFLA 情報未来サミット 2024、国立図書館長会議（CDNL）、アジア・オセアニア地域国立図書館長会議（CDNLAO）等への参加、中国国家図書館や韓国国立中央図書館との業務交流等を通じて、海外諸機関との連携を強化した。 ・国立国会図書館サーチでは、前年度はリニューアルに際して連携対象を見直したことなどにより連携機関数や連携データベース数が減少したが当年度は前年度並の水準を維持した（指標 37①～④）。レファレンス協同データベースも、データ数や参加館数は前年度の水準を維持した（指標 39①～③）。また、みなサーチについては、累積データ数は着実に増加した一方で、令和 6 年 4 月に実施した検索エンジン最適化により、利用者が国立国会図書館サーチに適切に誘導された結果、前年度と比較して大幅にページビューが減少した。（指標 40①～②）。 	

関連指標						
指標名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	目標値	令和 6 年度	達成状況 /動向
34 図書館員向け研修（集合研修/遠隔研修/講師派遣） ①実施件数（集合研修/遠隔研修）◆	38 件	45 件	49 件	40～48 件 (3か年平均基準型)	56 件	達成
②実施件数（講師派遣）	34 件	39 件	43 件	—	55 件	28%増
③満足度（集合研修/遠隔研修/講師派遣） 41	99%	98%	98%	—	98%	水準維持
35 図書館及び図書館情報学に関する情報提供 ①カレントアウェアネス（季刊誌及びメールマガジン）の記事数 42	134 件	128 件	116 件	—	115 件	水準維持

⁴¹ 参加者へのアンケートで「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合。遠隔研修のうち、YouTube 国立国会図書館公式チャンネル上で一般公開している講座については、受講者の満足度に関する指標は採取していない。

⁴² 季刊誌「カレントアウェアネス」及びメールマガジン「カレントアウェアネス-E」の記事数の合計

指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	令和6年度	達成状況/ 動向
②カレントアウェアネス-R の新規データ数	1,979件	1,880件	1,711件	—	1,721件	水準維持
③カレントアウェアネス・ポータルのデータへのアクセス数 ⁴³	5,551,800件	4,967,307件	4,947,662件	—	8,986,678件	82%増
36 海外への書誌情報の提供						
①OCLCへの書誌データ提供数 (典拠データ提供数を除く。) ⁴⁴	1,361,553件	1,548,820件	1,414,429件	—	1,148,566件	19%減
②VIAFへの典拠データ提供数 ⁴⁵	34,159件	34,429件	116,761件	—	33,903件	71%減
37 国立国会図書館サーチ						
①累積データ数 ⁴⁶	124,637,994件	129,841,140件	184,949,927件	—	189,127,741件	水準維持
②累積データベース数 ⁴⁷	125件	124件	107件	—	109件	水準維持
③連携機関数◆ ⁴⁸	89機関	95機関	88機関	88機関 (前年度基準型)	90機関	達成
④ページビュー数 ¹⁷						
上段：旧国立国会図書館サーチ	(234,021,186件)	(269,125,571件)	(249,912,085件)	—	—	
下段：新国立国会図書館サーチ	—	—	(49,100,019件)	—	158,349,757件	47%減
⑤満足度（利用者アンケート） ¹⁷						
49 50 上段：旧国立国会図書館サーチ	(89%) —	(92%) —	(90%) —	—	— 92%	水準維持
下段：新国立国会図書館サーチ						
38 ジャパンサーチ ⁵¹						
①累積データ数 ⁵²	25,321,694件	28,319,653件	29,564,963件	—	31,093,493件	水準維持
②累積データベース数 ⁴⁷	170件	202件	230件	—	269件	17%増
③連携（つなぎ役）機関数◆	33機関	39機関	49機関	49機関 (前年度基準型)	55機関	達成
④ページビュー数	3,089,493件	2,579,831件	2,807,780件	—	3,110,443件	11%増
39 レファレンス協同データベース						
①累積データ数	283,188件	300,303件	317,451件	—	336,256件	水準維持
②参加館数◆	881館	907館	925館	925館 (前年度基準型)	943館	達成
③データへのアクセス数	56,492,141件	37,602,859件	38,665,667件	—	67,419,504件	74%増

⁴³ 「カレントアウェアネス」、「カレントアウェアネス-E」、「カレントアウェアネス-R」等のデータへのアクセス数の合計

⁴⁴ OCLCは、国際的書誌ユーティリティである Online Computer Library Center の略称

⁴⁵ VIAFは、Virtual International Authority File（バーチャル国際典拠ファイル）の略称

⁴⁶ 令和5年度以降の実績値は、CiNii Researchから提供されるメタデータのうち、国立国会図書館サーチが直接連携している国立国会図書館雑誌記事索引、国立国会図書館デジタルコレクション及び学術機関リポジトリデータベース（IRDB）に由来するメタデータを含む。

⁴⁷ 累積データベース数は、メタデータ提供元のデータベース数（国立国会図書館のものを含む。）

⁴⁸ 国立国会図書館サーチが検索対象としているデータベースを運営する組織・機関の数

⁴⁹ 利用者アンケートにおいて、国立国会図書館サーチの満足度を尋ねた設問に対して、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合。標本数は、令和3年度1,497件、令和4年度1,480件、令和5年度1,675件、令和6年度2,324件

⁵⁰ 旧国立国会図書館サーチの満足度から大きな変動がないため水準維持と評価した。

⁵¹ ジャパンサーチは、「デジタルアーカイブ推進に関する検討会」（事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局）の方針のもと、様々な分野の機関の連携・協力により、国立国会図書館がシステムを運用している。

⁵² 累積データ数は、ジャパンサーチで検索可能なメタデータ数（国立国会図書館のものを含む。）で、書籍、自然史/理工学、公文書、文化財等、様々な分野のものが含まれる。このうち、書籍分野のデータは約5割。最新の分野ごとの詳細は <https://jpsearch.go.jp/stats> を参照

指標名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	目標値	令和 6 年度	達成状況 / 動向
40 みなサーチ ⁵³	—	—	5,167,945 件	—	5,956,761 件	15%増
①累積データ数	—	—	(5,837,629 件)	—	961,761 件	84%減
②ページビュー数	—	—				

⁵³ みなサーチ（国立国会図書館障害者用資料検索）は令和 6 年 1 月に正式版の提供を開始した。令和 6 年度末時点の連携データベース数は 10 件

事業分野	【重点事業に係る事業分野①】ユニバーサルアクセスの実現
事業分野の概要及び目標	<p>インターネットや身近な図書館で閲覧できるデジタル資料の拡充を図る。令和6年4月を目指し、図書館向けデジタル化資料送信サービスにおける国外図書館向けの複写サービスを開始する。また、個人向けデジタル化資料送信サービスにおける国外居住者向けの送信について引き続き検討・協議を行う。</p> <p>令和6年1月に正式版を公開した障害者用資料検索サービス「みなサーチ」を通じて、デジタル化資料から作成した全文テキストデータを、他の視覚障害者等用データと併せて視覚障害者等に提供する。また、令和5年7月に公開した「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0」について、引き続き公立図書館等への普及活動や今後の見直しに向けた検討を行う。さらに、当館が障害者サービスとして取り組むべき事項をまとめた「障害者サービス実施計画2021-2024」の実施事項の総括を行うとともに、次期計画を策定する。</p> <p>専門知識を活かして膨大な資料・情報をキュレーションし、効率的な調べ方のガイドや、知識を深めるための資料の紹介等、社会に役立つ情報を発信する。また、デジタル化資料から作成した全文テキストデータの効果的な利用方法を案内する。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> 個人向けデジタル化資料送信サービスにおける国外居住者向けの送信について、有識者へのヒアリング等を実施した。また、図書館向けデジタル化資料送信サービスについて、令和6年4月から国外図書館向けの複写サービスを開始し、1館を「閲覧・複写」の可能な館として承認した。 みなサーチを通じて提供しているデジタル化資料から作成した全文テキストデータの数は、約73万件が新規で追加された（指標32②）。また、有識者や関係団体から成る検討会を開催し「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン2.0（案）」を作成した。「障害者サービス実施計画2021-2024」の総括を行うとともに、次期計画である「障害者サービス実施計画2025-2029」を令和7年3月に策定した。 令和6年10月から11月にかけて東京本館及び関西館において企画展示「ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界」を開催した。国立国会図書館サーチの検索結果一覧画面を改修し、特定の調べ方案内記事と関連性の高い検索条件で検索が行われた際に、当該記事が表示されるようにした。また、レファレンス協同データベースに登録されているデータ利活用を促進するため、このデータのうち、当館提供データについては、これまで求めていた申請を不要とし、出典の記載等について定めた「国立国会図書館ウェブサイトのコンテンツ利用規約」に従うことで、商用利用も含め、自由に利用できることとした。

関連指標（再掲）						
指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	令和6年度	達成状況/動向
23 リサーチ・ナビ ①（調べ方の紹介ページ）累積記事数 ²⁵	1,377件	1,920件	1,905件	—	1,804件	水準維持
②（調べ方の紹介ページ）更新回数（一記事当たり）◆ ^{25 26}	1.47回	1.50回	1.29回	1.28～1.56回 (3か年平均基準型)	1.33回	達成
③ページビュー数 ²⁷	(56,911,884件)	(6,483,216件)	(6,463,151件)	—	5,443,577件	16%減

指標名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	目標値	令和 6 年度	達成状況 /動向
25 国立国会図書館デジタルコレクション ①累積データ数	4,329,866 点	5,028,894 点	5,578,623 点	—	6,219,595 点	11%増
②うち、インターネット提供数◆	1,767,474 点	1,838,041 点	1,919,280 点	1,919,280 点 (前年度基準型)	2,013,800 点	達成
③アクセス数 28	(92,074,555 件)	(66,871,857 件)	38,140,483 件	—	45,623,011 件	20%増
④うち、インターネット経由のア クセス数 28	(89,045,565 件)	(58,728,449 件)	24,722,407 件	—	28,114,525 件	14%増
26 デジタル化資料送信サービス (個人向け及び図書館向け) 29	1,538,914 点	1,851,430 点	1,803,834 点	—	2,052,268 点	14%増
①対象資料数	—	110,033 人	206,488 人	—	303,351 人	47%増
②個人向けデジタル化資料送信サービスの利用規約に同意した登録利用者数	—	(3,940,546 件)	7,664,013 件	—	10,661,820 件	39%増
③個人向けデジタル化資料送信サービス利用者による閲覧件数	—	(273,328 件)	1,429,219 件	—	1,850,474 件	29%増
⑤図書館向けデジタル化資料送信サービス承認館数	1,365 館	1,419 館	1,459 館	—	1,493 館	水準維持
⑥図書館向けデジタル化資料送信サービス承認館における閲覧件数 30	(306,639 件)	(227,756 件)	341,614 件	—	375,431 件	水準維持
⑦図書館向けデジタル化資料送信サービス承認館における複写件数	150,443 件	100,653 件	75,488 件	—	62,049 件	18%減
31 電子展示会のページビュー数	12,246,726 件	14,231,626 件	17,006,067 件	—	26,379,494 件	55%増
32 視覚障害者等用データ送信事業 ①新規データ数 38	4,540 件	2,469,724 件	5,050 件	—	734,899 件	—
②うち、デジタル化資料から作成した全文テキストデータを除く新規データ数◆ 39	4,540 件	[3,789 件]	5,050 件	4,226～ 5,164 件 (3か年平均基準型)	7,949 件	達成
③送信承認館数	202 館	239 館	337 館	—	389 館	15%増
④登録利用者(個人)及び図書館等からのアクセス数	669,449 件	720,665 件	773,152 件	—	911,424 件	18%増
40 みなサーク 53 ①累積データ数	—	—	5,167,945 件	—	5,956,761 件	15%増
②ページビュー数	—	—	(5,837,629 件)	—	961,761 件	84%減

事業分野	【重点事業に係る事業分野②】国のデジタル情報基盤の拡充
事業分野の概要及び目標	<p>デジタルで全ての国内出版物が読める未来を目指し、所蔵資料約 5800 万コマ分をデジタル化する。デジタル化資料から作成した全文テキストデータの一層の活用に向け、関係団体との協議や調査研究を行う。</p> <p>令和 5 年 1 月に有償又は DRM（技術的制限手段）が付されたオンライン資料の収集を開始したオンライン資料収集制度について、引き続き出版者等の協力を得つつ安定的収集を図る。また、他機関のデジタル資料の収集・移管、再生困難なデジタル資料の形式変換等、多面的な取組によってデジタル資料の長期保存を目指す。</p> <p>図書館の領域を超えて幅広い分野のデジタルアーカイブを連携させる「ジャパンサーチ」（注 51 参照）を通じて、多様な情報・データがオープン化され、活用が促進される環境づくりを支える。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> 図書、雑誌、博士論文、古典籍資料等約 6400 万コマ分のデジタル化を実施した（指標 24）。当館が開発した OCR（光学文字認識）処理プログラム「NDLOCR」を使用し、新たに約 73 万点の資料を OCR 処理し、全文検索可能なデジタル化資料は約 319 万点となった。 オンライン資料収集制度に基づく収集として、47 の学協会に対して納入督促をおこない、600 点以上の納入があった。また、当館が開発した自動搬送装置を備えたマイグレーションシステムにより、2000 年までに発行された音声 CD および 2015 年までに発行された映像 DVD（計 800 枚）について、劣化状況調査を実施した。 ジャパンサーチにおいて、6 連携（つなぎ役）機関、39 データベースと新規連携を行った。また、「デジタルアーカイブフェス 2024—活用最前線！—」（令和 6 年 8 月）を内閣府と共に催し、中高生向けワークショップ「目指せ GIF IT UP ! —デジタルコンテンツで GIF アニメ作り—」（令和 6 年 6 月）、「ジャパンサーチ連携機関向けキュレーションワークショップ」（令和 7 年 2 月）を開催した。

関連指標（再掲）						
指標名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	目標値	令和 6 年度	達成状況 / 動向
11 オンライン資料（電子書籍・電子雑誌） ①新規収集データ数◆ 11 12	75,709 点	72,389 点	[58,076 点]	68,733～84,007 点 (3 か年平均基準型)	71,070 点	達成
②うち、民間発行の新規収集データ数 11	25,086 点	24,232 点	26,003 点	—	23,843 点	水準維持
24 所蔵資料のデジタル化実施数（紙資料・マイクロ資料）	49,057,598 コマ	51,098,272 コマ	61,810,246 コマ	—	63,815,112 コマ	水準維持
38 ジャパンサーチ 51 ①累積データ数 52	25,321,694 件	28,319,653 件	29,564,963 件	—	31,093,493 件	水準維持
②累積データベース数 47	170 件	202 件	230 件	—	269 件	17%増
③連携（つなぎ役）機関数◆	33 機関	39 機関	49 機関	49 機関 (前年度基準型)	55 機関	達成
④ページビュー数	3,089,493 件	2,579,831 件	2,807,780 件	—	3,110,443 件	11%増